

2016年7月10日

## 福音書からのメッセージ

さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。

(ルカによる福音書 10 章 36 節)

ある律法の専門家がイエス様に質問します。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか」と。しかしこの質問は真理を求めたいという願いからではなく、イエス様を試そうとしてなされたものでした。

彼ら律法の専門家は、その名のとおり神さまの掟である律法を忠実に守り、そして研究をしていました。どうすれば神さまのみ心にかなった生活ができるのか、そのことを熱心に考えていたわけです。

律法の専門家の質問に対し、イエス様は逆に質問を投げかけます。「律法には何と書いてあるか」。そして律法の専門家が「神さまを愛し、隣人を愛すること」と答えると、「それを実行しなさい」と告げられます。

「神さまを愛し、隣人を愛すること」。わたしたちの中にはこの言葉を聞いて、「そのようなことなら自分にもできている」と思う人もおられるでしょう。逆に「なんて難しいことをイエス様は言われるのだろう」と感じる方もいると思います。

なぜそのように違うイメージを持つのでしょうか。それは「隣人」という言葉のニュアンスが、違うように感じられるからなのかもしれません。

イエス様の時代、律法の専門家をはじめとする多くのユダヤ人は、「隣人」とは自分たちと同じ民族で、なおかつ律法をきちんと守っている人たちだと考えていました。聖書には異邦人や罪人という人たちが



多く出てきますが、異邦人とはユダヤ人以外の人たち、罪人とは律法を守っていない人たちのことを指します。彼らはそのような異邦人や罪人と交際することはありませんでした。異邦人や罪人は、彼

らの「隣人」ではないのです。

しかしこのたとえの中でイエス様は、強盗に襲われた人を助けたのは律法を守っているユダヤ人(祭司やレビ人)ではなく、異邦人であるサマリア人であったと語ります。隣人であるはずのない人が、まったく関わりのない人を助けたのです。

この強盗に襲われた人とサマリア人との関係は、わたしたち一人一人とイエス様との関係でもあるのです。イエス様はボロボロになり、歩くことすらできないわたしたちの元に来られました。道の向こう側を通ってもよかったです。でもイエス様は関わってくださいました。傷の手当てをし、宿屋に連れて行って、再び歩けるようになるまで世話をしてくださるのです。

イエス様はわたしたちに手を差し伸べ、隣人として関わってくださいました。そしてわたしたちに、「行って、あなたもおなじようにしなさい」と言われます。ではわたしたちの隣人とは誰でしょうか。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>